

# 新潟縣 公民館月報

昭和41年2月号 (通刊第156号)

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市学校町一・県庁本館社会教育課分室内】

【電話・(新潟)(23)5511 内線626】

【振替 新潟 4094】

発行人 会長 吉津 勝栄

編集人 事務局長 本日 清

昭和41年2月15日発行

【定価1部15円千共・年価180円】

題字 新潟県知事 塚田 十一郎

交通安全運動  
青少年育成運動

## 社会教育関係四団体で協議

### の積極的推進

さる二月二日、県婦人会館で、社会教育関係四団体協議会の定例会が開かれ、共通テーマとして「交通安全運動」「青少年不良化防止運動」をとり上げ、今後さらに四団体で具体的な推進策について協議を続けていくことになった。



婦人会館での社教関係四団体協議会定例会

### 教育振興県民会議のあり方についても協議

この日集まったのは、本会から吉津会長以下三名、県P鈴木会長以下三名、県連喜志田事務局長、県婦連村田理事長以上六名のほか、県社教課から長嶋課長以下各担当社教主事九名が出席した。まず、各団体から当面している事業、問題点などが発表され、情報交換のあと、四団体における共通推進事項が協議された。この結果、「交通安全運動を盛り上げる」、「青少年育成運動を盛り上げる」(禁止事項の普及ではなく、

四団体で青少年に対して何かをやつて上げようとする運動)、「この二つ」について意見が一致、それぞれの担当部署間との連携をはかりながら今後さらに協議会を開催して、その推進についての具体策を練っていくことになった。また、本会から提議された「教育振興県民会議」の参加、開催方法についての四団体間の意志統一の件については、教育振興県民会議のもち方について、すっきりしない点があることを認めるとともに、その取り組みについては三月下旬もつ一度開催する予定の例会において継続協議していくことになった。

### 社会教育法令集

一部 三〇円  
A5版34ページ  
申込は新潟県公運事務局へ

## 総額二億八千万

施設国庫補助 五千二百万円増す

会公連では、さる一月八日から一万円の増、設備費において百八十二日まで、本部役員おのみ、本万円の増額が認められ、施設費総額代表なら特定府県公運代表の参額で三億五十八百万円設備費総額加によって、昭和四十一年度の全で二千三百四十九万円となった。国公民館関係予算増額についての施設費国庫補助率は長い間、一割の陳情運動を行なった。この率百万円の頭打ち補助であったが、結果、公民館整備費補助は、施設費増額に對し三分の一の増額が認められるようになった。

になったことから、全国的にも公民館建設のうごきが活発になってきている。本県においてもすでに公民館新築のための施設補助希望が、青海町、上川村、堀之内町、牧村、小国町、小千谷市、広神村、川口町の八市町村から出され、また村上市と相川町から移動公民館(自動車)の補助希望が出されている。このため、当局では昨年より五千円分のワケがふやえたいとほいえ、その配分に苦心するものと思われる。

### 湯沢で開く

41年度県大会

昭和41年度(第17回)県公民館大会は、7月8・9日南魚沼郡湯沢町湯沢中学校と同公民館で開催される方針となった。本会では、湯沢以来、中越地区の開催候補市町村のうち第一候補の湯沢町の意向を打診中のところ、地元湯沢町と、南魚公連が受け入れ方を了承、中越公連でも、開催に関する協議を開始するなど着々と準備がなされている。本会では開催地元の意向を尊重しながら、近く基本方針を決定する。

## 無用の用

哲学者莊子は、きわめて物語性に富んだ哲学書「莊子」で、無用の用を強調している。人間、世に処する道は虚心と無用とが大切であり、心が麗くあれば禍から遠ざかり、無用であればよき生を全うする。その折衷を説いたエピソードのひとつ。孔子が楚に視られると、楚國の驢上接輿は孔子のところへでかけて行っていた。山の木は有用だから伐られる、膏火は有用だから燃やされる。禍はずべて自分から出ている。肉桂は食べられるので伐られるのだし、漆は役に立つので割られるのです。人々はみな有用の用を知ってはいませんが、無用の用を知らず

### 目次

- 県民コンクール結果 P. 2
- 西山町公民館の巻 P. 3
- 成人の日行事から P. 4
- (今月号は都合により4ページといたしました)

へたに有用だったりますと、上役でこまつかわれてすりへらされてしまい、あまり日先の利益をうけない奴が、何時のまにか美力をつけてきて、長距離レースでは優位に立ったりする。まさに無用の功得といふべきだなお論語に接興の話がある。

第3回

県広報コンクール結果

すいばら町だより 最優秀賞

年努まきり年報に開ける編集技術



最優秀賞のすいばら町だより

県広報協議会主催の第三回広報コンクール審査会が、さる一月二十五日県庁で開かれた。各市町村公民館からの応募広報紙五十二点のなかから、最優秀知事賞に「すいばら町だより」第8号(水原町公民館発行)など三十二点のほか広報写真四一点の入賞を決めた。このうち「すいばら町だより」と市の部一位の「加茂町政だより」は自治会主催の全国コンクールにも参加することになった。

減少する公民館報

審査は各報道関係、県、県教委、市長会、県公連等の代表者など十名が当り、各応募広報の企画、取材、文法、割りつけ技術等について個々に事前審査を行なって採点合計を出したうえ、さらに審査会での討論を経て入賞を決定した。最優秀賞を得た「すいばら町だより」はB5版横型、文字組み4ページ、8ページというユニークな型式で、水原町公民館で編集発行している。読む人のためを思つて書かれた文章とキメ細かな内容、明るい紙面構成などが高く評価され、審査員全員一致で知事賞に推せんされた。

広報紙の部

最優秀知事賞 すいばら町だより 第八号 水原町公民館発行

入選

- 第一位 加茂町政だより (市部)
- 第一二二号 加茂市発行
- 第一位 広報たかた
- 第一七二号 高田市発行
- 二位 広報にいがた
- 第一三五号 新潟市発行
- 三位 広報なほえつ
- 第九七号 直江津発行
- 佳作 三条中政だより
- 第一六二号 三条市発行
- 佳作 長岡市民と市政
- 第一三四号 長岡市発行
- 佳作 広報しづね
- 第五四号 白根市発行
- 佳作 いとがわ

(町村部)

入選 一位 すいばら町だより 第八号 水原町公民館発行

二位 ぎんすい 第十八号 分水町発行

三位 広報のうまら 第四号 能生町発行

四位 広報くひまき 第三七九号 頸城村発行

五位 広報おつみ 第九九号 吾海町発行

三位 公民館報かみかわ 第三〇号 上村公民館発行

佳作 新庄 第八十号 入込瀬村公民館発行

佳作 鶴巻くさか 第五二号 黒川公民館発行

佳作 広報おがた 第九九号 大瀧町発行

佳作 鶴巻おた 第八九号 佐和田公民館発行

佳作 広報つづみ 第三〇号 豊浦公民館発行

佳作 広報いすもさき 第九号 出雲崎町発行

佳作 広報かのぞ 第五六号 即興町発行

佳作 板倉広報 第二〇六号 板倉町発行

(広報写真の部)

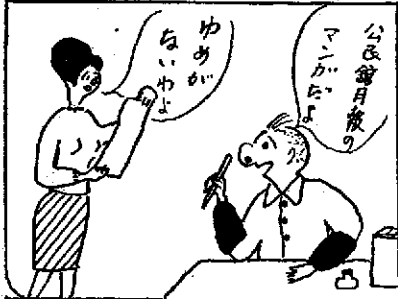
優秀賞 茨倉 糸魚川市 元気に本操イテニッサ

台風二四号による水害の記録 直江津市

努力賞 急行赤倉とコンクリートミキサー車の衝突事故 越後市

# お茶ッピイ子

14. 悉才 ラフギ・かす



公民館ひろいある記

## 西山町公民館の巻

### 住民を主役として建設

【屋上で民踊講習】

刈羽郡・田村と内郷村が合併して西山町が誕生したのは昭和34年4月だった。7月におこなわれた町民選挙の前、現在N.0・45号(毎奇数月発行)をかぞえる鎮報『にしやま』の創刊号が発行されているが、これは新しい町づくりに果たす公民館活動の重要性を深く認識した積極さを物語るもので、このことは、新町長の施政方針やその後の町行政のリーダーとしての公民館の位置を培ったともいえ

る。公民館では、小林主事を中心に青年団や婦人会などの合併後の再編成が着々と進められ、団体の結

束と、そのための集まる場、皆のた」と小林主事はいう。公民館の必要性が強調され、公民館建設への機運は各団体を中心に住民の中に高まりつつあった。

青年団や婦人はじめ、各団体の会合での町長の『町民の融和、親睦』の強調は、住民の集まる場公民館建設の機運をさらに助長し公民館をつくらねばならぬ立場に立たせられる結果ともなった。

住民としっかり結びついた小林主事を中心とした、地味だがたゆみない公民館活動の歩みがつづいてきた。

『公民館の建設が決定してから私意識して表面、はなやかな場には出ないようしました。公民館新築といはなやかなステーションには、竣工後の公民館活動をよりよく進めるために、どうしても協力してもらわねばならぬ人々を主役として登場させるようにしました(四〇・一三・三 篠岡助六記)

施設なくしては社会教育はあり得ないのストローマンをかかけたい内容備品の整備と、各教材でから丁度足かけ五年、三十九の充足、約千坪の前身にパレ、年秋に転願達成、鉄筋三層建の階数コート各二面の建設、歴史的に公民館を建設準備すること、焼却炉の設置、館正面玄関前にが由来した。

しかし内容施設設備の充足には昨四十年大変な苦勞でしたが約七割の達成ができ、当年はこれが仕上げの年となりました。白米としてみますと、建物内容も十人収容可能事務室、四十人可能調理実習室、洋間式集會室、(じゅうたん敷)約五十人収容、専門図書室小会議兼用のサロン以上二階、二階は講堂として約三百人収容可能アコステオン扉として二階に区別できる仕込みとして、ステーション付、屋上は約三百人位踊れる広場として誕生したのですが、行事、作業の体験結果からこの外に小集會室が二つ位、日本間二つ位、要、当年度又は来年度に博物館それに宿直室、物置はきりして必要といった現状です。便所は水洗式、昨年真町寄方にも必要といつて現状です。啓蒙の推進してゆきたく思っています。(西山町公民館主事・社教主事兼)

## 昭和41年度の西山町公民館

小林美鈴

館利用は現在一日平均五十人、月千五百人位、町民であれば気楽にとなたも使える雰囲気をつくるべく無条件に開放いたして居ります。とに角使って頂くことが先決問題であった、そのうち逐次系列的に、内容的に分類整理、各々方向づけて行きたい。当年度の予算は昨年と大体同じ位ですが、現実には職員二人では不足のため、真面目にして使いたい必要のないが悩み、法整備による社教専門職員の大増員が必須の整備や、造構水池の整備や、造

# 成人の日の行事から

青木英治

国民の祝日が法制化し、成人の日の行事が実施されてから今年で十八回がめぐって来た。県の推計によると今年成人になったものは三万五千五百七十九人、終戦の子を例年よりは五六千人も少ないという。終戦の子を迎えた成人式、ここに例年とちがった意義をもたせた。

この成人式は、職場や団体でも行なうが、主となるものは市町村単位で行事が実施される。その内容には、記念品を授け、祝賀や祝酒で成人になった喜びを交わす、品物や形にあらわした成人になったことを祝うこと、地方公共団体の財力にのりて、受ける印象はそれぞれ異なるが、共通の贈り物は選挙権が与えられたということである。

政治への参与という無形の記念品である。全国で約五百五十万の青年が新しく主権をもつ国民になったのである。しかも終戦の年に生まれた若者がたまたま国民会を員ながら迎えた成人の日である。明瞭な成人式は地域地域でいろいろある。選挙権を授けられた青年は始言相の祝辞に耳を傾けさせるといふのもは誰しも思う。また、この日からは誰しも新しい

成人になった時は誰しも新しい覚悟をもつ、細やかなる選挙権行使しようとする、それが三年とたち三年とたつうちに、社会悪にそまり、大人の赤い政治にまきこまれる。奉仕の気持で始めた政治運動も次第に金言を求めたくなるとなり、金の多い方へなびく、清らかな政治節操が奪われて赤い政治に誘われる。何回選挙をやっても金のあるものが現行勢力を維持し政治の副産が行われない。

選挙権が与えられた当時の純粋の気持をどこまでも続けたい、このことだけを望みたい。

成人式には地域地域でいろいろある。中央では成人の代表者を集めて言相の祝辞に耳を傾けさせるといふのもは誰しも思う。また、この日からは誰しも新しい

この日から嗜れて酒と煙草をのめることだけが成人の喜びと想うようになったものがある。大人と成人になったものが一輩に会し、酒と煙草をのめることだけが成人の喜びと想うようになったものがある。大人と成人になったものが一輩に会し、酒と煙草をのめることだけが成人の喜びと想うようになったものがある。

この日から嗜れて酒と煙草をのめることだけが成人の喜びと想うようになったものがある。大人と成人になったものが一輩に会し、酒と煙草をのめることだけが成人の喜びと想うようになったものがある。

この日から嗜れて酒と煙草をのめることだけが成人の喜びと想うようになったものがある。大人と成人になったものが一輩に会し、酒と煙草をのめることだけが成人の喜びと想うようになったものがある。

この日から嗜れて酒と煙草をのめることだけが成人の喜びと想うようになったものがある。大人と成人になったものが一輩に会し、酒と煙草をのめることだけが成人の喜びと想うようになったものがある。

この日から嗜れて酒と煙草をのめることだけが成人の喜びと想うようになったものがある。大人と成人になったものが一輩に会し、酒と煙草をのめることだけが成人の喜びと想うようになったものがある。

選挙で成人式を祝った。大人は酒が出来ないと二人前でないと思われ、強いて酔わせる風習もあったといふ。

田舎では、特に地帯では職業によつて、成人にならぬうちから酒と煙草は一人前だといふことも多い。成人式に嗜れて酒や煙草をすすめる大人たちは成人式の意義を知らない。成人式に酒や煙草を使うのは大人の趣味で、真に成人になったことを祝う意識を知らないものである。酒や煙草に出るだけ近よせまいようにはかろうことが成人を祝うもの真義ではなかつたか。

若手県のある部落では、元服式同様の式が百年も続いていると成人の日のテレビで紹介された。十の経費をかけるかたも調べた。

五才になった少年が一人ずつ首長の前で杯に御酒をついでもらって飲む古風のものだが、これなどは大人の時代感覚のずれの現ではないか。

国民の祝日でありながら、全国一斉に行事のない地方が多々あることは筆者の心を暗くする。愛宕地方、出稼の多い町村では成人式は五月の農繁期前か八月のお盆のころに繰りさげる。国民の祝日として美を休む日に、仕事の休み時間、テレビで成人式の模様だけ見る交った環境つまり成人の日に成人式をあげられない市町村が、県下でどれほどあるだろうが、県公連を調査し見たりどうか、併せて成人式の催し方とれば、どの経費をかけるかたも調べた。

(四一、二、一五 成人の日)

ワサビのニギリ

徳間助夫

社会教育は学校教育を育むべきか。それもはつとならんで車の両輪のきりしない。はつきりさせなくてごくと、といった昔から社会教育は現にあるし、これくらいいわれている安易にあらわさかいて、住民にこれだけして低級な理論のうえに乗せているのではないか。

いつたい現代社会にあって社会教育はなぜ必要か。必要だとすれば、これからの社会教育の、重松敏一先生の時評、社会

この時評は、私の仕事へのワサビとして毎月真つ先にむきほり読んできたが、このたびほどよくきいたワサビはなかった。私にとつては、丸つきのワサビのニギリのような感じだった。

ことしは昭和41年。次官連達の送られた昭和41年からかき立て満20年。まさしく公民館の成人式

の年であり、折柄、公民館のあるべき姿と今日の指標の中間報告も発表された。

私にとつても、どに角やれば

ら今後の成人式のあるべき姿に、い方法が打ち立てられると思う。山間の辺地でも昔の大人の仲間入りぐらゐりに考えてこの日に酒をたまり飲みませせて酔わせることが何よりの祝いだなどの考え方は締りたい。酒類は一切やめ、形式に走る記念品もいらぬ、頭の向上をはかる政治討論会か、はたちの信念をテーマにした弁論会、憲法問懸についてのアンケート等を催して、成人に達した喜びの意義を深めることにしたい。

県公連あたりが先に立つて成人式のあるべき姿、中身の行事について研究、改善をはかることを希望してやまない。(六日町公民館運営審議委員)

(四一、二、一五 成人の日)

## あとがき

昭和四十一年度の公民館関係予算増額のための全公連の陳情運動にはじめて参加してみましたが、結果は、一面増額のとおり五千円ほど増額ということになりましたが、これを全国の新築希望公民館に廻りあてることができるといふこともないことになりました。

しかし、この五千円を獲得するための全公連の運動にもう一つなものでした。文教委員会々場となつて赤坂のプリンスホテルでは、教育関係の各分野から参加した運動員たちが、部屋にも廊下にもあふれていました。委員の代議士が肩に風を切るように歩いていくと追いついて強引な折衝風景がいたるところに見られました。

われわれ公民館の関係運動員も負けじと各関係方面へ電話訪問と繰り出してがんばりました。人なほまだしなれば予算がどれぬという現在の算編成のあり方に疑問を感じながらも、やむを得ずあきらまわしに力を入れたらざるをえないというわけです。

（柏崎中央公民館主事）